

社会科教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
学校教育論	岡谷英明	現代学校の課程を理論的に解明することを目的とする。変貌する社会の中で教育システムがどのように編成されるべきかを考える。
学校経営論	平井貴美代	学校の経営過程や組織的特性に関する基本的事項について学習するとともに、開かれた学校づくりや学級崩壊など、最近とくに話題となっている問題についてアプローチするための視点や方法を検討する。 テキスト使用：『新版 学校教育の基礎知識』（協同出版）
生徒指導論	高柳真人	児童・生徒の自己指導能力を育てながら、その自己実現を援助するというガイダンスの視点に立った生徒指導を進めていくための理論や方法について学ぶ。
学習指導論	馬場園陽一	自ら学ぶ意欲や考える力の育成を目指す授業の方法、一人一人の児童生徒の良さを生かす授業の方法、さらにはこれらの力の育成を目指した教育評価の方法について、その理論的側面を探り、学習指導への実践的なアプローチを試みる。また、新しい学力観のもとで実践されている様々な授業方法（例えば、体験学習、総合学習、問題解決的学習、コース別学習、T・T等）についても紹介し、学力形成との関係を論じる。
教育相談論	金山元春	教育相談は、人間関係の営みの中で行われる実践活動である。本授業では、受講生の人間関係能力の開発を通じて、教育相談の実践力の向上をはかる。具体的には、グループワークを活用し、自己理解、他者理解を深めたり、社会的スキルを学んだりする機会を提供する。講義については、実践経験豊富な研究者あるいは実務家でありながら学会等で活躍されている方の研究成果を上げる。
情報演習Ⅰ	中西 秀男	高度情報化社会に積極的に対応できる情報処理の基礎能力を身に付けた教員の養成を目的として、コンピュータとソフトウェアの基本操作並びにネットワークの利用方法に関する演習を行う。情報演習Ⅰでは、Windowsの基礎、電子メール、文書処理及び表計算などよく利用される機能を中心に基本操作に重点を置いて演習する。
情報演習Ⅱ	赤松 直	ある程度習熟した人を対象に、コンピュータの活用能力、情報処理に関する総合力を身に付けることを目的として演習を行う。内容は、ネットワークの設定およびその基礎知識の習得、ホームページ作成、各種ソフトウェアの活用などである。これらを通して、情報化社会の課題や情報リテラシ教育についても一緒に考えることにする。自前のノートパソコンを携行願いたい。
社会科教育特論Ⅰ	藤田詠司	社会科教育のニュー・パースペクティブに関する緒論を講読することにより、社会科教育の諸理論の理念および授業実践化の原理を把握する。
社会科教育特論演習Ⅰ	藤田詠司	学会誌等に掲載された最新の研究成果を検討することにより、社会科授業構成論の現状と課題を把握する。
日本史学特論	市村高男	日本の中世都市・流通に関する基本的文献を講読し、研究史の整理と代表的な事例分析を行う。特に戦国期を中心とした検討を通して中世都市・流通史研究の視点や方法論について学ぶことを目的とする。
日本史学特論演習	市村高男	戦国期を中心とした中世土佐の都市・流通関係史料を講読する。研究動向を概観したのち代表的な史料の抽出・検討を行い史料操作や史料分析の方法を学ぶ。
西洋史学特論	柳川平太郎	西洋近世・近代の都市史について講読を行う。マックス・ウェーバーの都市の類型学に基づいて西洋近世都市の特質を確認したのち、ドイツと他のヨーロッパ諸国の近世都市について都市税制や手工業の分析をして比較史的に理解させる。

社会科教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
西洋史学特論演習	柳川平太郎	西洋近世都市に関する原書講読演習を行う。ドイツ語既習者とはベルリン史についての研究書と18世紀の史料を、また英語のみ既習の者とは19世紀初頭の旅行記を用いて講読と演習を行い、都市史分析の基礎的方法を履修させる。
東洋史学特論	遠藤隆俊	宋以後における中国知識人のあり方を、蘇州の范氏という事例を通して具体的に考察する。特に彼らの系譜や財産問題を中心に、中国近世社会の特質を宗族という観点から明らかにすることをめざす。
東洋史学特論演習	遠藤隆俊	日本及び中国・欧米における中国史研究の現状を把握した上で、中国学の基礎的文献を講読する。それによって古典漢文の基礎的訓練を行うとともに、書誌学や目録学など中国史研究に必要な基礎知識の修得をめざす。
地理学特論 I	岡田俊裕	近現代日本の地理学史・地理教育史を検討し、戦後に継承、発展した課題と視点、方法論について講義する。
地理学特論演習 I	岡田俊裕	地理学・地理教育の主要な文献の講読・演習を通じて、地理学・地理教育の実証的調査研究に関する考え方、方法を修得させる。
地理学特論 II	藤塚吉浩	都市地理学研究の近年の動向について講読を行う。なかでも、都市化の動向と関連づけながら、都市内部の機能分化について理解させる。
地理学特論演習 II	藤塚吉浩	都市地理学、特に先進資本主義国の都市問題に関する文献の講読と演習を行い、都市地理学研究に関する考え方、方法を履修させる。
政治学特論	松岡儼一	西洋近代政治史ならびに政治思想を検討し、日本における近現代政治史研究の基礎となる知識の習得と研究方法の確立を目指す。
政治学特論演習	松岡儼一	近代日本政治史の研究を課題とし、殊に国民国家形成期の政治史および政治思想に関する原史料の読み方を訓練することを目指す。
経済学特論 I	廣田精孝	現代の経済社会における景気変動やインフレーション、雇用・失業問題や環境問題等の動向を、市場経済の競争メカニズムの理論的考察を通じて具体的に探求していく。
経済学特論演習 I	廣田精孝	独占論・恐慌論・金融論を基軸にした理論的かつ具体的分析を通じて、現代資本主義経済の構造とその再生産の動態のメカニズムの原理的・体系的な解明を追求する。
経済学特論 II	鈴木啓之	新自由主義・新保守主義の経済政策・社会政策について、それが生み出されてきた経済的背景、政策の内容・手法の特徴、問題点などを研究する。その際、わが国の国と地方における事例や諸外国の事例も踏まえながら具体的な事実に基づいて論じていく。

社会科教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
経済学特論演習Ⅱ	鈴木啓之	この授業では、特論を踏まえ、新自由主義・新保守主義の政策が及ぼす影響等について、産業、労働、福祉等、各分野の事例を掘り下げて研究していく。それを通じて、この種の傾向を持った政策が、どのような将来社会像をわが国の国民にもたらそうとしているのかを理解できるようにする。
哲学特論	原崎道彦	17-19世紀のヨーロッパにおける近代的人間像の形成をたどり、ドイツ観念論に焦点をあてて、自由・権利・平等・民主主義などの概念を理解させる。
哲学特論演習	原崎道彦	近代的人間像の原型を示したテキストをもちいて講読と演習をおこなう。哲学のテキストを読み解くための基礎となるスタイルを習得させる。
倫理学特論	小澤照彦	現代の生命倫理および環境倫理のバックボーンとなっている代表的な倫理的アプローチ、(1)目的論的、(2)応用倫理的、(3)法倫理的、(4)政治哲学的アプローチを比較検討し、それぞれの問題点を明らかにすることによって、生命倫理及び環境倫理への新たなアプローチを模索してみたい。
倫理学特論演習	小澤照彦	生命倫理および環境倫理に係わる基本文献を読み、議論することによって特論のアプローチをさらに具体的かつ詳細に検討し、研究発表を行う。
法学特論	藤本富一	諸外国の憲法についての講義を行う。学部段階で学んだ日本国憲法に関する知識と融合させることによって、世界における日本国憲法の位置づけやその特色等をより深く理解することを目的とする。また日本の憲法問題を考える際の参考にするために外国の発想法を学ぶことも目的とする。
法学特論演習	藤本富一	判例研究を行う。裁判所で争われた具体的な事件を素材として議論することによって、法の生きた姿を知ると同時に、単なる知識の修得にとどまらず法的思考法を身につけることを目指す。
社会教育実践研究Ⅰ	藤田詠司	社会科授業構成論の成果をふまえ、実験授業その他の手法を取り入れて、社会科教育に関する附属校園等での授業研究を基に、学習内容研究、学習過程構成法等について、理論的に研究することを指導する。
社会教育実践研究Ⅱ(A)	市村・遠藤・岡田・柳川・藤塚	わが国における社会科教育実践史の研究をふまえ、社会諸科学の研究成果に関する研究を通じて、社会科領域の教材内容について、実証的に研究することを指導する。
社会教育実践研究Ⅱ(B)	松岡・廣田・原崎・藤本	わが国における社会科教育実践史の研究をふまえ、社会諸科学の研究成果に関する研究を通じて、社会科領域の教材内容について、実証的に研究することを指導する。
社会教育実践研究Ⅰ(長期インターンシップ)	市村・遠藤・岡田・柳川・藤塚・松岡・廣田・原崎・藤本・藤田	附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと、教材開発、学級経営、児童生徒の観察、子どもとのふれあいにもとづく単元計画作成、または、LD、ADHD、不登校、乳幼児等子どもの観察にもとづく実習計画作成を行い、実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する。さらに、単元計画の実施、研究会への参加、公開研究授業、または、事例研究会への参加、ケース参加の実施を行い、結果を関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度な専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する。
社会教育実践研究Ⅱ(長期インターンシップ)	市村・遠藤・岡田・柳川・藤塚・松岡・廣田・原崎・藤本・藤田	附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと、教材開発、学級経営、児童生徒の観察、子どもとのふれあいにもとづく単元計画作成、または、LD、ADHD、不登校、乳幼児等子どもの観察にもとづく実習計画作成を行い、実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する。さらに、単元計画の実施、研究会への参加、公開研究授業、または、事例研究会への参加、ケース参加の実施を行い、結果を関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度な専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する。

社会科教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
課題研究	藤田詠司	社会科教育実践上の課題について、文献研究や実験授業などを遂行させることをとおして、社会科教育学における高度の専門的知識及び自ら研究する能力を習得するよう指導する。
課題研究(A)	市村・岡田・遠藤	各自の研究課題を設定して、その研究計画に従って高度な専門的知識の育成をはかるとともに、院生自らが主体的に研究する能力を開発し、研究内容の集大成を目指すよう指導する。
課題研究(B)	松岡・廣田・原崎・藤本	各自の研究課題を設定して、その研究計画に従って高度な専門的知識の育成をはかるとともに、院生自らが主体的に研究する能力を開発し、研究内容の集大成を目指すよう指導する。